

「阪高 SAFETY ナビ」によるドライバーへの事故リスク情報の提供結果

阪神高速道路（株） 正会員 ○岩里 泰幸
 阪神高速道路（株） 非会員 宇野 巧
 （株）交通システム研究所 正会員 小澤友記子
 （株）交通システム研究所 正会員 大藤 武彦

「阪高 SAFETY ナビ」は、これまでに3万人を超える利用者が取り組んだ、阪神高速のホームページ上で提供する交通安全に関するコンテンツである。本稿は其中で指定の経路の事故リスク情報を提供開始し、利用者アンケートをおこなった結果について報告するものである。

1. はじめに

「阪高 SAFETY ナビ」は阪神高速道路（株）が提供する交通安全に関するコンテンツの集合体である。そのコンテンツの中で、指定した経路の事故リスクを提供することにより、利用者のより安全な経路・時間帯への行動変容を促すものが「SAFETY ドライブ・スマートチョイス」（以下、「スマートチョイス」という。）である。ただし事故リスクという概念が世間一般に浸透しておらず、事故率や事故遭遇確率などの事故リスク指標をただ提供しても利用者が有益に活用できない可能性がある。そのため、本稿ではある程度選別した事故リスク指標を試験的に提供し、それらについて利用者アンケートをおこなった。

2. 情報提供内容

スマートチョイスは、利用者が選択した阪神高速の入口及び出口に応じて、図-1 に例示する通り、考えられる経路ごとに、通常の所要時間、料金、走行距離に加えて事故リスク指標として「事故への注意水準」（事故率と事故件数から設定される5段階の水準）、「事故を起こす確率」、「事故に出合う可能性」（他人の事故による事故処理時間等を考慮した事故渋滞など、事故による何らかの影響を受ける可能性、事故遭遇確率。）として提供するほか、具体的に注意する地点についての情報を提供している。また利用者は図-2 に例示する詳細画面において、経路ごとの事故リスクの比較が可能となっており、事故リスクの低い経路を選択できるほか、移動時間の変更が可能であれば検索時間帯（この場合は15時台）よりも事故リスクの低い前後の時間帯に移動時間を変更することも可能となる。したがって、利用者は、スマートチョイスの利用により、事故リスクを考慮した阪神高速道路の運転計画を立てることが可能となっている。



図-1 経路表示画面の一例

③ 経路上の注意地点情報(条件を確認し、注意地点情報をご利用ください)

【経路情報の条件確認】
 曜日、時間帯、降雨有無の条件を変更できます

曜日: ☒ 平日 ☐ 日・祝日 ☐ 週末
 時間帯: 15時台
 降雨: ☒ 降雨なし ☐ 降雨あり

<参考> 設定条件(赤枠)の前後時間を表示

選択経路	第1経路	第2経路	第3経路
時間帯	14時台	15時台	16時台
平均所要時間	74分	77分	79分
事故への注意水準	レベル4 (特に注意)	レベル4 (特に注意)	レベル3 (注意が必要)
事故を起こす可能性	114 (件/1000台キロ)	140 (件/1000台キロ)	96 (件/1000台キロ)
事故に出合う確率	51%	57%	43%
事故に注意する地点数	18地点 ●:3 ●:11 ●:4	20地点 ●:4 ●:12 ●:4	21地点 ●:4 ●:13 ●:4

図-2 詳細情報画面の一例

キーワード 交通安全, 事故リスク, 経路案内, コンテンツ

連絡先 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1-3 阪神高速道路（株）岩里泰幸 TEL 06-6252-8121

3. アンケート結果

スマートチョイスの利用及び得られる情報に関するアンケートを、2015年11月26日から翌年1月5日の約40日間、阪神高速ホームページを通じて実施し、1,534件の回答を得た。

スマートチョイスで提供した情報が役に立ったかという設問に対する回答を図-3に示す。約8割以上が肯定的な感想（役に立った＋少し役になった）を持っていることがわかる。

どのような情報や機能を活用したくなったかという設問に対する回答を図-4に示す。今回提供した事故リスク情報の中では「事故への“注意水準”」が最も活用意向が高いことがわかる。これだけをもって指標を選別することは困難なものの、これら事故リスク指標が、走行距離やガソリン消費量などの既存提供情報の活用可能性を上回り、「事故への“注意水準”」にあつては「料金」と同等以上の活用可能性があるとの回答は驚嘆に値する。なお、図-5に示す認識のしやすさについての回答からも、各指標が同等であることがわかる。

同じ情報でもどのように表現するかで理解・イメージしやすさは変わることが考えられたことから、事故の危険性を判断する指標として、イメージしやすい指標が何かを尋ねた。その回答結果を図-6に示す。利用者は、言葉よりも数字やシンボルを用いたほうが事故リスクをイメージしやすいという傾向が窺える。

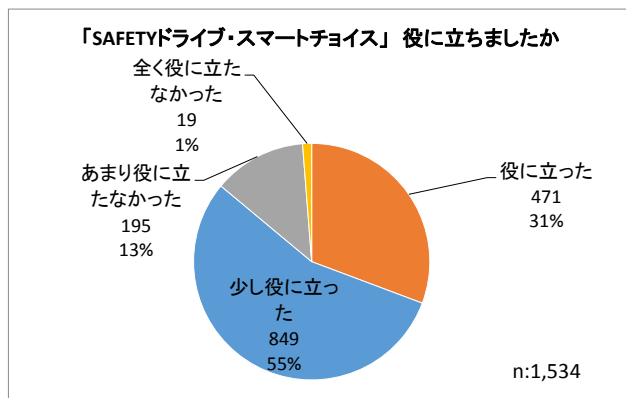


図-3 役に立ったか？回答結果

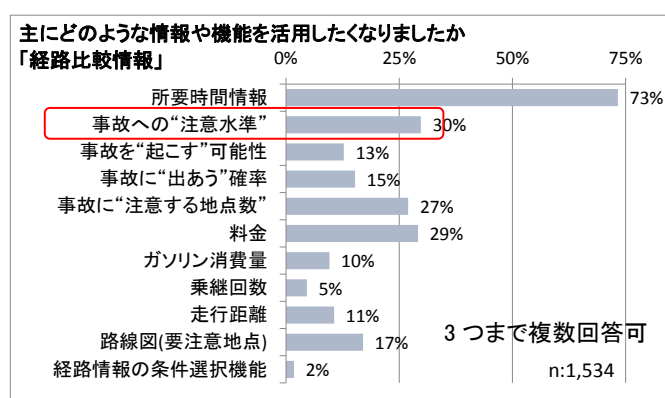


図-4 どのような情報を活用したい？回答結果

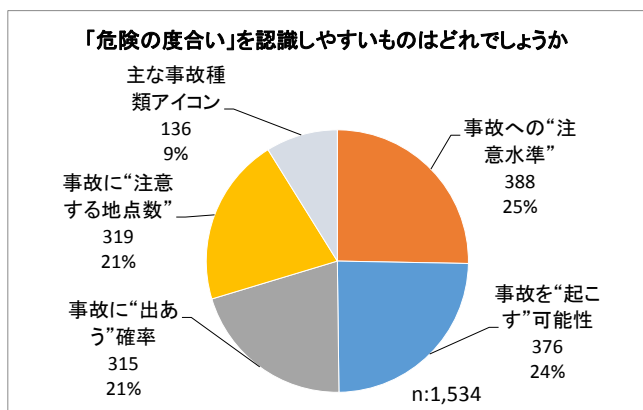


図-5 認識のしやすい指標 回答結果

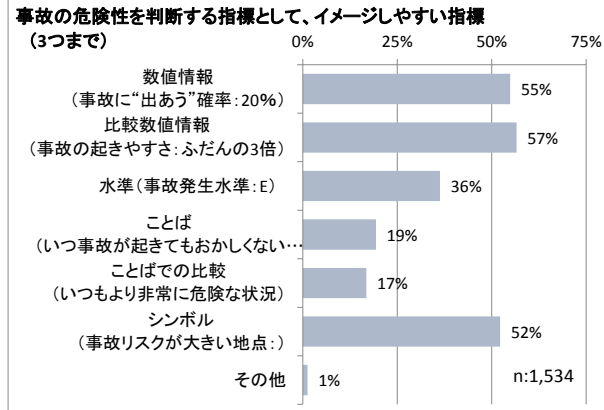


図-6 イメージしやすい指標 回答結果

4. おわりに

今回、当社の取り組みとしてはじめて阪神高速道路の事故リスク情報を提供し、今後の提供可能性を探るため、利用者アンケートを実施した。その結果、事故リスク情報の提供は多くの利用者にとって役立つ可能性があり、所要時間や料金などの既存の提供情報と比較しても遜色なく重要視されていることがわかった。また、今回提供した各事故リスク指標については、わかりやすさ等も考慮して、より利用者が有益に活用できるよう検討が必要であることもわかった。今後、今回のアンケート結果も受けて、スマートチョイスをはじめとする阪神高速道路の交通安全コンテンツのさらなる改善を図る所存である。